

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：2011年6月24日(金)

地域企業紹介 13
第一合成株式会社

「工業」と「文化財」 異質な分野に果敢に挑戦！

第一合成株式会社の河野良子社長を八王子市元本郷町の本社工場に訪ねました。第一合成はコンテナメーカーに勤務していた河野社長の父親が1975年に設立した会社。設立当初は主にプラスチックコンテナを扱う専門商社だったが創業者の強い思いもあり徐々にメーカーへの脱皮を図っていった。現在、同社はプラスチックの加工技術をベースに工業と文化財の二つの部門を持っている。

工業部門は電子基板を静電気から保護し、安全で効率的に搬送するためのコンテナ、ボックス、トレイ、マガジンラックなどを。また、重電・弱電メーカーの組立工程で使われるラインパレットなどを手がけている。

もう一つが文化財部門。埋蔵文化財の発掘調査から整理、保存、保管、展示まで文化財に関連するあらゆる製品やサービスを手がける。遺物の収納や搬送に使うプラスチック製の「テンバコ」、熱伝導性の低い桐材を使用した特別な収納箱、遺物の実測に用いる「真弧」、展示用の台座、出土遺物に発掘日時、出土地点などをマーキングする自動注記機のリース業務、出土遺物の洗浄業務、遺物台帳作成業務など幅広い。(2面につづく)

ウェブサイト：<http://www.daiichigosei.co.jp/>

第一合成株式会社 代表取締役 河野 良子
所在地：八王子市元本郷町1-25-5 創業：1975年9月
従業員数：25名 資本金：6000万円 売上高：8億円（2010年実績）
事業内容：物流器機、静電気対策製品、環境、液晶関連商品、
文化財保存器機的设计・製造、企画、製作、販売、生涯学習事業

売上の比率は工業部門が約70パーセント、文化財部門が約30パーセント。工業部門は、5年前からメーカーとしての商品を多く販売していくという方針にシフトして、近年少しずつその成果も表れている。文化財部門は、大学や地方の教育委員会などからの受注でありコンスタントに仕事はあるが国内の市場は成熟しているため、韓国、台湾など海外市場の開拓を進めている。特に、中国本土を見据えて台湾に力を入れているようだ。

河野社長は大学卒業後、広告代理店での勤務を経て、創業者である父親に請われ平成12年営業担当として入社。17年に代表取締役専務、そして、18年に父親の急死に伴い代表取締役社長に就いている。若い社長の登場とともに古参の社員が退き、1年間で三分の一が入り替わったそうだ。18年当時50歳代だった平均年齢が今では30歳代と急激に若返りを果たしている。また、今年は地元の工科大から初めて新卒を採用している。

どんな働きをするか、会社にどんな変化をもたらすか非常に楽しみにしているという。

社長業について聞いてみた。「最近やっと面白いと思えるようになりました。経営を任された頃は、やりたいことや思いがあってもその考えをどう伝えればいいのか、どう動いていけばいいのかわからなかった。そういう中で色々なことが次から次へと起こり、大変でしたね。今は会社の将来を考える前向きな悩みですね」

将来の夢は工業も文化財もトータルに関わること。「工業なら工場をまるごとプロデュースする。植物工場の設備、ラインに関わる仕事もやってみたい。」「文化財なら博物館そのものをプロデュースしたり、教育や地域活性化に繋げる活動もしてみたい。」と河野社長は楽しそうに語る。工業と文化財という異質な市場に果敢に挑戦しようとしている。



参加企業のプレゼンテーション



研究者と懇談



個別商談中



参加企業及び関係者

Taiwan Japan

SIC台湾ビジネスマッチング事業について

神奈川県ビジネス・インキュベータ連携によるIT/エレクトロニクス分野

研究開発型ベンチャー企業の海外販路開拓等支援事業(関東経済産業局補助事業)

SICでは、関東経済産業局の補助を受けて、昨年12月から海外販路開拓支援に初挑戦しました。対象国は、IT/エレクトロニクス産業を筆頭に成長著しい台湾とし、SICや県内インキュベーションセンターの入居企業など10社が参加し、3月初旬に台湾で商談会を行ってきました。4ヶ月間の事業期間、しかも正月、旧正月が挟まる極めてタイトなスケジュールでしたが、参加者の方々に始め多くの関係者の方々のご協力を得たことで、商談以降の成果が芽生えつつある中、今回の活動をご報告します。

1. なぜ台湾か？

国内メーカーの海外進出が加速しており、国内市場が縮小している現状において、今後、経営基盤の強化を図り事業活動の継続や成長を図るには、グローバルな展開も視野に入れながら事業展開をする必要が生じつつあります。

SICでは、このような状況の中で、研究開発型ベンチャー企業の海外展開を支援する試みとして実施し、台湾を選定したのは、東アジア市場において市場の成長性が高く、低コストであり、生産技術力が高く、IT/エレクトロニクス産業の集積度が高いこと、さらに台湾在住のコーディネータのネットワークが活用できることなどの理由です。

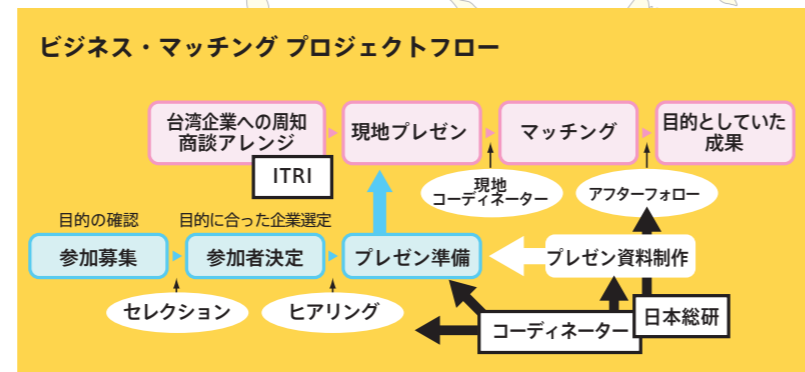
2. 目指したもの

初挑戦ではあるものの、目標レベルを、「台湾での個別商談を通じて成果に繋がる活動を目指す。」と高めに設定し、関係者間での力の入った活動となりました。なお、台湾企業との協業内容は、技術供与・製造委託・販路開拓・購買・業務提携などを想定し、参加企業の募集・打診を進めていきました。

目標の実現に向けて重点的に実施した活動は以下のとおりです。
・日本参加企業のヒアリング:技術の強み、連携・協業意向の把握
・台湾企業への周知・商談のアレンジに向けた調整活動
・コーディネータ同席による円滑な商談
・フォローアップ活動
これらの活動のベースには、台湾現地のコーディネータ・海外展開コーディネータ・調査会社(日本総研)に多大な貢献をいただきました。

さらに、1月の事前調査(台湾)において、台湾工業技術研究院(ITRI)を訪問し、商談の協力を得たことが、更なる活動の活発化に繋がることとなりました。

ITRIは、台湾の経済部(経済産業省に相当)が設立した台湾の産業発展を支える財団法人で、研究開発機能に、知的財産移転・ベンチャーキャピタル・インキュベーションセンター・国際ビジネス支援などの機能を併せ持ち、職員数は5,700名。本事業では、ITRIの協力により多くの台湾企業への周知・打診、商談アレンジ、商談会の開催が実現しました。



3. 準備活動

1月の事前調査を終えて帰国し、本格的な準備活動を開始。台湾企業への募集、個別商談の実現に向けて、日本参加企業の強みを反映した中国語の概要資料をITRIへ送り、集客・アレンジ活動が進められ、並行して、コーディネータや日本総研のネットワークにより、参加企業ごとの個別商談のアレンジが進められていきました。

4. 台湾での商談会

事前準備を終えて、2月28日から3月3日の4日間、参加者24名(参加企業10社12名、オブザーバー3名、コーディネータ4名・事務局5名)により、台湾での商談活動が実施されました。移動日である初日2月28日は、台北・松山空港に入り、新竹に近い南寮という街で、商談会を前にして期待とくすかな不安が混じる中で結団式をしました。

3月1日 台湾工業技術研究院(ITRI)での商談会。午前のプレゼンテーションには多くの台湾企業が集まり、総勢120名に上る活気に満ちた雰囲気の中で、日本企業10社が自社技術を熱心にアピール。午後には、ITRI内の「Chimei's Cafe」において個別商談会、延べ43商談という多くの出会いの場となりました。

3月2日・3日 台湾企業訪問による個別商談活動の日です。参加企業10社が台南・新竹・台北・基隆など台湾各地で蜂の子を散らしたように個別の商談活動を実施。事前のアレンジもあれば、ITRIを契機にした再商談もあり、合計延べ29商談が繰り広げられました。

台湾ビジネスマッチング参加企業名
相模原地域企業: ㈱青電舎、㈱オプトデザイン、㈱共立、クラフト㈱、㈱グローバルヘルス、レボックス㈱
(SIC入居企業)
神奈川県内企業: ㈱アポロジャパン、㈱ファインテック、ラット㈱、オーエスエスブロードネット㈱

5. フォローアップ活動

商談会での出会いを成約に結びつけるために、本事業ではフォローアップを重要視し、帰国後に参加企業の商談状況、課題などを把握しつつ、4月末には、台湾でのフォローアップ活動を行ってきました。

去る6月14日には約50名の参加者を得て報告会を開催しました。参加企業同士の再会を喜び交流を温めている姿を見ると、ミッション団による団体行動の副次的な効果を感じた次第です。

6. 成果はいかに

今回のビジネスマッチングでは、早くも受注に結びついた企業があるなど、具体的な成果が生まれつつあります。

成果を纏めると、台湾工業技術研究院(ITRI)でのプレゼン(120名参加)、3日間の商談件数は計72件、現時点での成約に至ったのは1件、サンプル評価2件、ITRIとの連携案件2件となっています。

一方、準備・商談活動の全てが順風満帆に推移した訳では決してなく、その過程ではコミュニケーションギャップの関係からのアクシデント発生など、今後の活動での課題もあります。

7. まとめ

台湾企業への関心は総じて強く、日本企業と台湾企業との協業の場づくりへと繋がるとともに、具体的な受注及び受注可能性のある案件が生じていることで、一部課題はあるものの当初の目的は達成したものと考えられます。

SICとITRIでは、相互の商談会の開催、ビジネスインキュベーション施設の相互利用など今後の連携強化に向けて協議を進めており、7月には台湾で協定調印式を行う予定です。

SICでは、ITRIとの連携のもと、今後も、台湾との経済交流、海外展開支援をさらに積極的に進めていく予定ですので、ご期待下さい。

1 中小企業研究開発補助金 研究開発テーマ募集

相模原市では、市内中小企業の技術力向上のために中小企業研究開発補助金を交付し、中小企業が取り組む新製品・新技術開発や新分野進出を支援しています。

平成23年度の研究開発テーマを募集しています。

【対象】 市内に事業所を有し、単独又は共同で新技術・新製品開発等の研究開発を行っている中小企業者

【補助額】 研究開発に要する経費の1/2以内

(上限 200 万円。ただし、産学連携枠や行政課題対応枠による研究開発については、上限が 300 万円になります。)

【補助期間】 単年度 【採択件数】 4 件程度

【申込期間】 6月15日(水)~7月15日(金) 17時必着

詳しくは 次の URL をご参照ください。

<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/sangyo/11264/josei/004093.html>

【お問い合わせ】 市産業・雇用政策課 TEL : 042-769-9253

相模原市からのご案内

- 平成23年度 補助金・融資制度について -

2 中小企業融資制度

市内中小企業者の資金需要に対応するため、市が一定の資金を金融機関に預け、これに金融機関独自の資金を合わせて低利な融資制度を実施しています。

主な資金(市指定の金融機関で取り扱っており、資金ごとに資格要件が異なります。)

資金名	融資利率	利子補給後 利用者負担利率	融資限度額	信用保証料 補助
中小企業振興資金	2.4%	2.4%	3,000万円	信用保証料 の70%以内 (千円以内切 捨て15万円 限度)
小企業小口資金	2.4%	1.4%	1,000万円	
景気対策特別資金	2.2%	0.6%	2,000万円	
景気対策特別小口資金	2.2%	0.3%	500万円	
経営安定支援資金	2.2%	0.6%	2,000万円	

詳しくは、次のURLをご参照ください。

http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/sangyo/11264/yushi/chusho_kigyo/index.html

【お問い合わせ】

市産業・雇用政策課 TEL : 042-769-8237

相模原市産業振興財団 TEL : 042-759-5600

6月 SIC イベントカレンダー

2011年6月~

2011年6月18日 iSB公共未来塾開講

6月25日 経営塾開講

7月22日 職場リーダー養成塾開講

8月5,6,8,10,11日 ジュニアアントレ

8月17,19,20,21日 子どもアントレ

相模線で名勝を訪ねる!

JR下溝駅。昔ながらの駅舎を後に近くの「八景の棚」があります。相模川八景の一つ。雄大な相模川の流れて遠くの大山、丹沢の山々がつくる景色は、さまざま姿で人々を楽しませてくれます。春の桜、夏の深緑と朝靄、秋の夕焼け、冬の雪化粧。また、そばの武田信玄が小田原進攻の際に戦勝を祝い植えたという「さいかちの木」が戦国時代の歴史を語ります。



ち とってもとっても ちいさな旅



入居企業を募集しています。

SIC 空室情報 (6月20日現在) SICまでお気軽にお問合せください。(賃料: 共益費込み)

	部屋	空室数	賃料(月額)
SIC-1	ラボ	94.5 m ² 1	235,515 円
SIC-2	(空室なし)		
SIC-3	ラボ(84 m ²) + サブラボ(28 m ²)	12	211,680 円
	セミラボ A	56 m ² 3	117,600 円
	セミラボ B	28 m ² 4	58,800 円
	オフィス A	42 m ² 3	97,020 円
	オフィス B	21 m ² 3	48,510 円

編集後記

暑い夏がやってきます。SICインターンシップの学生が、今年も子どもアントレの開催に向け、準備をしています。暑い夏を、暑い気持ちで乗り越えられるのも、インターンシップ生ならではの感覚だと思います。これまでの10年、地域企業の皆様に支えられて来た「子どもアントレ」です。11年目の今年も、皆様の協賛していただく暑い気持ちをお伝えできたらと考えています。(広報担当)



★ご意見・ご感想をお待ちしています。

(株)さがみはら産業創造センター(SIC) 〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077 E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ウェブサイト <http://www.sic-sagamihara.jp/>